



ノートパソコンで震災時の写真などを見ながら学ぶ生徒たち―善防中学校

## 震災学び教訓継承

### 善防中 ノートパソコン使い授業

**加西** 加西市両月町の善防中学校では、全校一斉にノートパソコンなどを使った防災の授業があった。「密」を避け、各教室で阪神・淡路大震災について学び、万が一の際の行動を考えた。

パソコンで、震災時の写真などを見た後、災害後の自分を主人公とする物語を作る学習。15日午後2時に、震度7の地震が発生したと想定とした。

2年1組で、生徒たちは、直後に「電気が消える」「揺れが大きくて動けない」などと書き込み、数分～数時間後には「体育館に集合」

### 被災後の自分物語創作

「けが人がいる」、翌日は「家族と合流」と自分の行動をイメージした。

無線回線が圧迫されて写真表示などに時間が掛かり、物語を互いに閲覧しながらの意見交換はできなかったが、担任の河野善洋教諭は「災害は必ずやってくる。頭の隅に置いておいてほしい」と呼びかけていた。

朝田楓梨さん(14)は「震度7は経験したことがないが、深くイメージしたら怖かった。万が一の時には、学んだことを生かして行動したい」と話していた。

(小日向務)